

スペインのサラゴサで開催されている水の万博(6月14日〜9月14日)の帰りに、ローマ時代に建設されたセゴビアの水道橋の視察に向かう。サラゴサから高速鉄道で320^キ離れたマドリッドに向かい、そこから95^キ離れたセゴビアに到着、道中、高速鉄道を除い

ると、全長958^キ、高さ28^キ、120本の石柱、166のアーチが私を圧倒する。ローマ時代からの水道橋は、スペインの澄み切った紺碧の空に映え、誰しも言葉を忘れるようだ。水道関係者なら、なおさらであろう。

セゴビアは標高1000^キ以上の大地に位置する城壁の要塞である。この要塞に水を導く水道橋は、14便所、家事などに使われ、城内の木々のそばを通り緑を育み、谷に排水されていた。城塞にある噴水は、見て楽しむだけのものではない。水利的に考察すると、水の状況



吉村 和就

て英語のア
ナウンスは
なく、すべ
てスペイン
語(当たり
前だが)こ
こでも国連

セゴビアの水道橋

時代からのカンと経験が頼りだ。世界遺産の宝庫と呼ばれるスペインでも、このセゴビアの水道橋の評価が高い。ローマ時代(紀元後1世紀)の建立、さらには世界最大級の大きさ、保存の良さが輝いている。旧市街の玄関にあたるアンゲホ広場に立ち、天を仰ぎ見

3%の勾配で、毎秒20^リの飲料水を2000年にわたり供給してきたのだ。水道橋の入り口には石づくりの小屋があり、そこには沈砂を目的とした枡があり、掃除と点検ができるように角落としが設けられている。水道は維持管理が命である。2万個を超える石の巨大建築、水路の勾配の計測技術やモ
ルタルを一切使わない施工技術、時間とともに強固になる石積みなどの技術等、土木建築の心得があれば、1日中見ている飽きないであろう。
水道橋を通った水は、城内に入ると地下の樋に入り、浴場、公衆便所、家事などに使われ、城内の木々のそばを通り緑を育み、谷に排水されていた。城塞にある噴水は、見て楽しむだけのものではない。水利的に考察すると、水の状況

水道関係者には是非見ていただきたい世界遺産である(グローバルウォータ・ジャパン代表)